

## 第 20 期（平成 30 年度）事業報告

### （概要）

平成 30 年度の報酬改定は診療報酬との同時改定ということもあり、施設での看取りを見据えた医療との連携をはじめ、自立支援・重度化防止に対するアウトカム評価の導入、ICT 活用の推進など、新たな視点や方向性が打ち出され、それらに対応する加算も増額された。

施設も看取りに取組み、住み慣れた場所で最期を迎えられる環境づくりを整え、生活を通して介護サービスを提供し、その人らしい最後を迎える事で、職員も達成感があり、家族にも感謝されている。30 年度は 4 名の方が施設で最期を迎えられた。

30 年度は業務の省力化・職員の負担軽減の為、ICT 導入を実施したが、全職員が慣れるまでには時間がかかり、期初の計画通りにはいかなかったが、今後も充実させ、施設のイメージアップ、人材確保にも寄与できると期待している。

また、期初の計画である「地域共生社会」の実現に向けての取組みでは、短時間のデイサービス A 型、いきいきサロンの継続、居宅ケアマネを一人増員して地域の福祉需要への対応、介護ニーズの掘り起し等を実施。今後も鋭意取り組んで行く。

30 年度は 28 年度、29 年度に発生した感染症の反省を踏まえ、湿度と温度を常に注視し、特に湿度は一定に保つよう職員一丸となって取り組んだ結果、ノロウイルスやインフルエンザの蔓延もなく、ショートステイの利用者増に繋がった。

社会福祉法人を取り巻く環境は日々変化しており、法人に期待されている役割はますます大きくなっている。常に社会の情勢を注視し現状維持は後退に繋がるため、今後も改革を進めていく。

平成 30 年度の事業運営状況について、ご報告します。

## 1. 期初の計画と実施状況

期 初 の 計 画	実 施 状 況														
<p>1. 競争力アップ<sup>°</sup>の為の介護技術力強化と人材育成・確保の施策</p> <p>(イ) 各種委員会活動の強化・推進</p> <p>(ロ) フリセプターシップ<sup>°</sup>制度 (新人教育制度) の実施</p> <p>(ハ) 施設外の各種研修への参加派遣</p> <p><u>施設外研修参加目標</u> 50 件以上</p> <p>(ニ) 施設内研修会・勉強会の実施 <u>目標 15 件以上</u></p> <p>(ホ) 人事考課制度</p> <p>(ヘ) 時給職員の正職員への登用試験制度</p>	<p>(イ) 10 の委員会があり、自主的な業務改善活動を実施。特に、防災、感染、事故委員会に顕著な向上がみられた。</p> <p>(ロ) カリキュラムや教育方法などの見直し充実化を図りつつ、上席職員による OJT にて個別教育を実施。 30 年度は職員 4 名実施</p> <p>(ハ) 研修派遣の実績は以下の通り。</p> <table border="0" data-bbox="798 963 1420 1299"> <tr> <td>介護職員</td> <td>39 件 (前年度 42 件)</td> </tr> <tr> <td>ケアマネ</td> <td>4 件 (前年度 6 件)</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>3 件 (前年度 1 件)</td> </tr> <tr> <td>看護職員</td> <td>2 件 (前年度 2 件)</td> </tr> <tr> <td>防災担当職員</td> <td>6 件 (前年度 5 件)</td> </tr> <tr> <td>事務職員</td> <td>3 件 (前年度 4 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>57 件 (前年度 60 件)</td> </tr> </table> <p>(ニ) 全体研修会 5 件、フロア毎の勉強会 11 件、 外部講師による研修 3 件 <u>実施開催件数 19 件 (前年度 21 件)</u></p> <p>(ホ) 制度への理解度、能力・成果主義への考え方は職員に浸透。年 3 回実施し職能及び夏・冬賞与に反映させた。</p> <p>(ヘ) 他施設ではあまり実施の声が聞かれず他に先駆けての取組みで目的は十分達成され、効果が上がっている事を実感。 実績 30 年度は応募者なし</p>	介護職員	39 件 (前年度 42 件)	ケアマネ	4 件 (前年度 6 件)	管理栄養士	3 件 (前年度 1 件)	看護職員	2 件 (前年度 2 件)	防災担当職員	6 件 (前年度 5 件)	事務職員	3 件 (前年度 4 件)	合計	57 件 (前年度 60 件)
介護職員	39 件 (前年度 42 件)														
ケアマネ	4 件 (前年度 6 件)														
管理栄養士	3 件 (前年度 1 件)														
看護職員	2 件 (前年度 2 件)														
防災担当職員	6 件 (前年度 5 件)														
事務職員	3 件 (前年度 4 件)														
合計	57 件 (前年度 60 件)														

2. 自立支援、地域交流の為の  
各種行事等の実施

(イ) 専門講師への業務委託に  
よる音楽療法への実施

(ロ) 地域福祉の活性化への積  
極協力

(ハ) 施設内外での各種行事の  
実施。

(ニ) ホームボランティアの効果的活用

－以上 継続事業－

3. 事業所内保育所事業

(イ) 音楽療法士による音楽指導を  
特養で月4回実施。前講師は体  
調不良により退職された為、新  
任の音楽療法士をお迎えし、  
新しい形で音楽療法を実施。

(ロ) 東部看護学校、知徳高校等、  
多くの研修受入れ実施。

・ 知徳高校 (延人数 111名)

・ 裾野高校 (延人数 10名)

・ 清水町新規採用教員

(延人数 12名)

・ 東部看護学校 (延人数 8名)

・ 医療センター看護 (延人数 15名) 等

(ハ) 遠足、納涼祭、敬老会、運動会、  
クリスマス会、節分、買物ツアー、ふれ  
あい広場への出店等、四季折々  
の多くの行事を実施。

(ニ) 現在3つのホームボランティアが誕生、  
メンバーの方々にもやりがいを感じ  
て頂ける様、受入れ側も努力を惜  
しまずに良い方向に向けて継続  
して行きたい。

近隣に保育所が開設された為、今後  
の状況をみて検討する。

## 2. その他 実施事項

### 社会福祉充実計画の実施

改正社会福祉法により、社会福祉法人は、保有する財産について、事業継続に必要な財産の額を控除した上で、再投下可能な財産(社会福祉充実残高)を費消する必要がある、30年度より計画を実施した。

・ 本館外壁補修工事	31,428,000 円
・ 介護記録 ICT 化 サーバー等一式	2,061,720 円
・ 低床ベット (3階)	283,500 円
・ スチームコンベクションオーブン	1,387,800 円
・ 低床ベット (2階)	288,980 円

### 介護予防・日常生活支援総合事業の継続

町が行う介護予防教室事業を受託し、要支援者、生活機能の低下がある人を対象に短時間のデイサービスA型を29年度より開始している。現在、週2回実施。

A型から通常デイサービスに移行した利用者もいる為、今後も内容を充実させ利用者増に注力したい。又、ロコモ体操教師を招聘し無料で利用して頂き、運動機能向上に大いに貢献した。

### 備品の購入

開設以来19年が経過し、器具・備品の不備・故障が多くあり、29年度に続き備品を購入した。

・ 電話設備	1,782,000 円
・ 業務用ガス温水ボイラー	216,000 円
・ マニュアルストレッチャー	189,000 円
・ パソコン3台	407,052 円
・ ガステーブル	270,000 円
・ タイムレコーダー	326,160 円

## 不適切介護絶滅運動

下記事項の絶滅を図り、自己評価と他者評価を実施。

- ・利用者への“ちゃん付け”絶滅
- ・無言介護絶滅 → 必ず声掛け
- ・スピーチロック（利用者の行動を直接的な表現で制止）の絶滅
- ・起床後の布団の整頓（朝忙しい時間帯もそれなりに畳む）

100%改善には至らなかったが、接遇は向上した。特に起床時の布団の整頓は改善した。今後も継続実施する。

## 防災の強化

※地震から利用者・職員の安全を守る為、家具・備品の固定化、ガラス飛散防止フィルムの貼り付け工事は実施済み。又福祉避難所開設の為、避難所に指定されている施設へ防災委員を派遣し防災の研修を多く実施した。

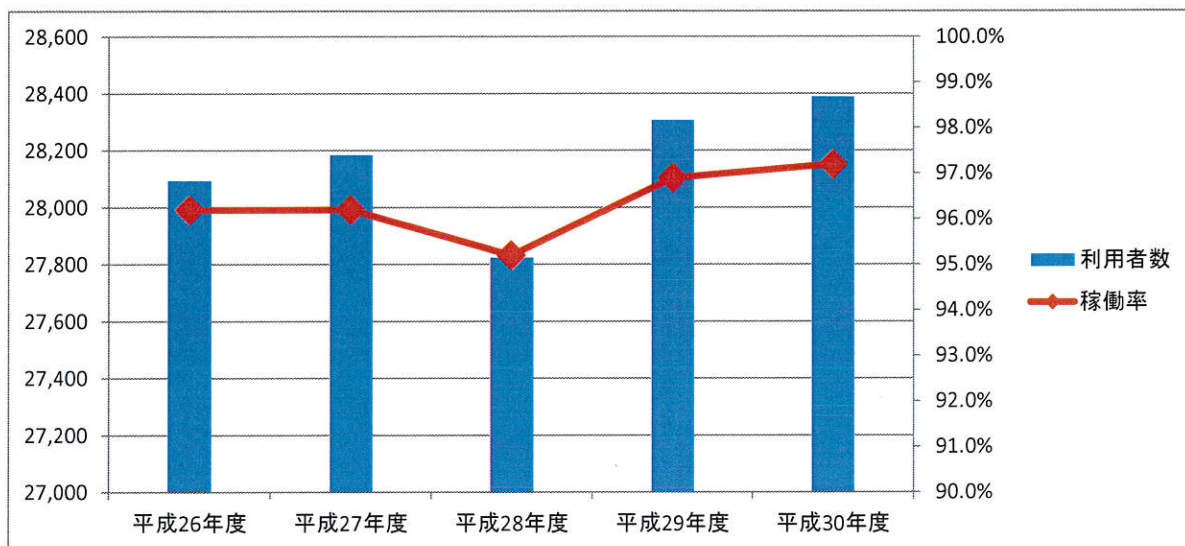
※BCP（事業継続計画）の強化

- ・震災後、7日間の飲料水、おむつ、食糧の備蓄。
- ・防寒具（毛布、使い捨てカイロ等）の備蓄。
- ・非常用トイレ用品の購入（凝固剤、ビニール等）
- ・照明用品（ライト、ランタン等）の備蓄。
- ・利用者に防災食を提供した。今後は年2回実施。

### 3. 各部署の事業運営状況

#### a) 特養

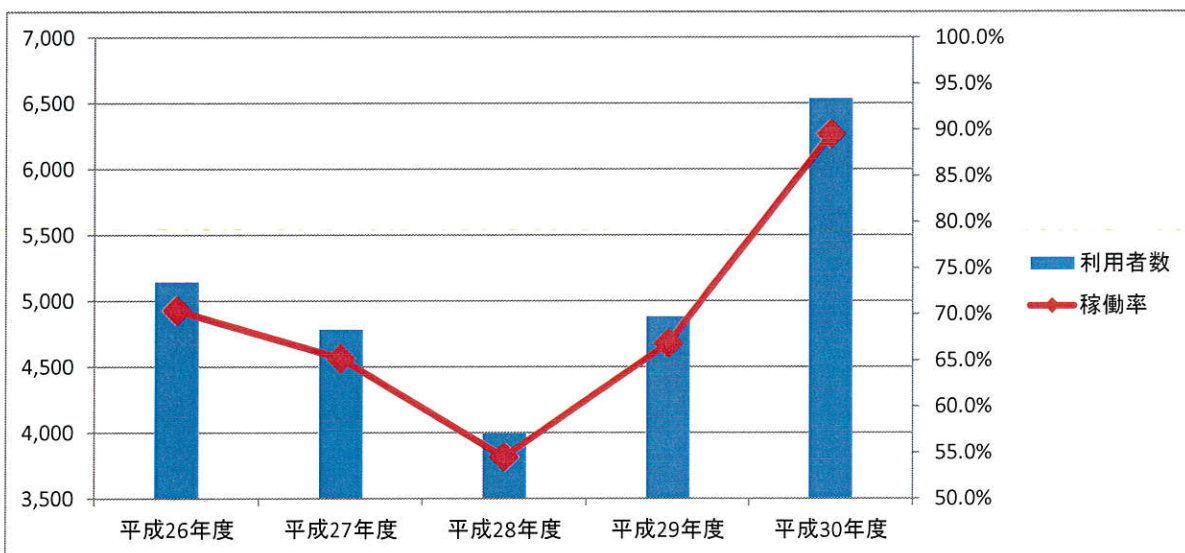
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	28,095	28,185	27,825	28,307	28,389
稼働率	96.2%	96.2%	95.2%	96.9%	97.2%



入院日数715日(前年537日)、入所ロス96日(前年334日)、入院日数は増加したが、退所者が出た時、迅速に入所に繋げた為、利用者数、稼働率は、上昇した。

#### b) ショートステイ

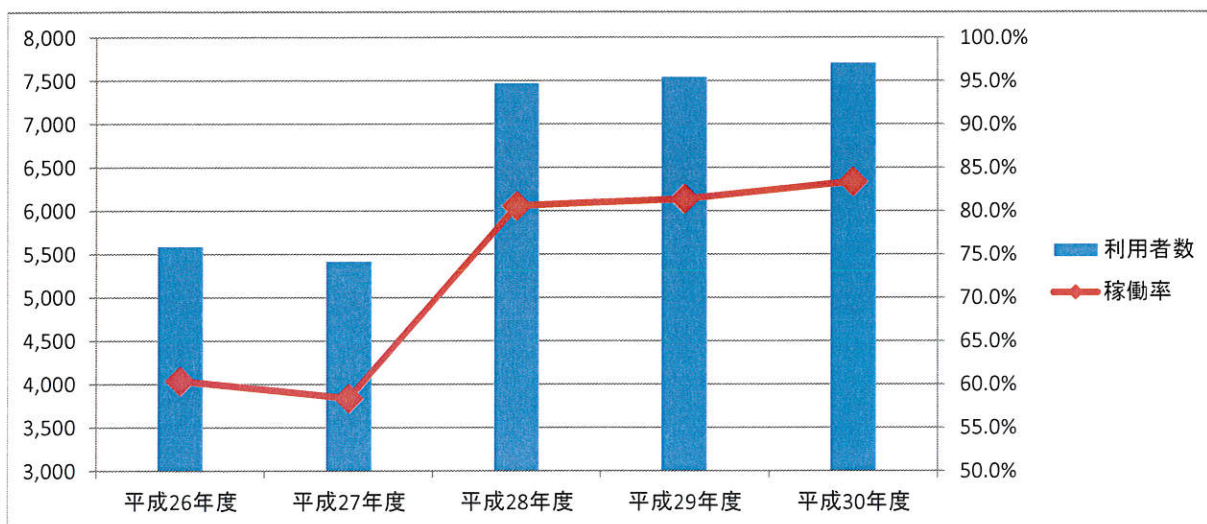
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	5,146	4,785	4,000	4,883	6,537
稼働率	70.4%	65.2%	54.5%	66.8%	89.5%



30年度はインフルエンザ、ノロウィルスの蔓延がなく、利用者数、稼働率は著しく向上した。今後も気を抜かず、サービスの向上と利用者確保に注力したい。

### c) デイサービス

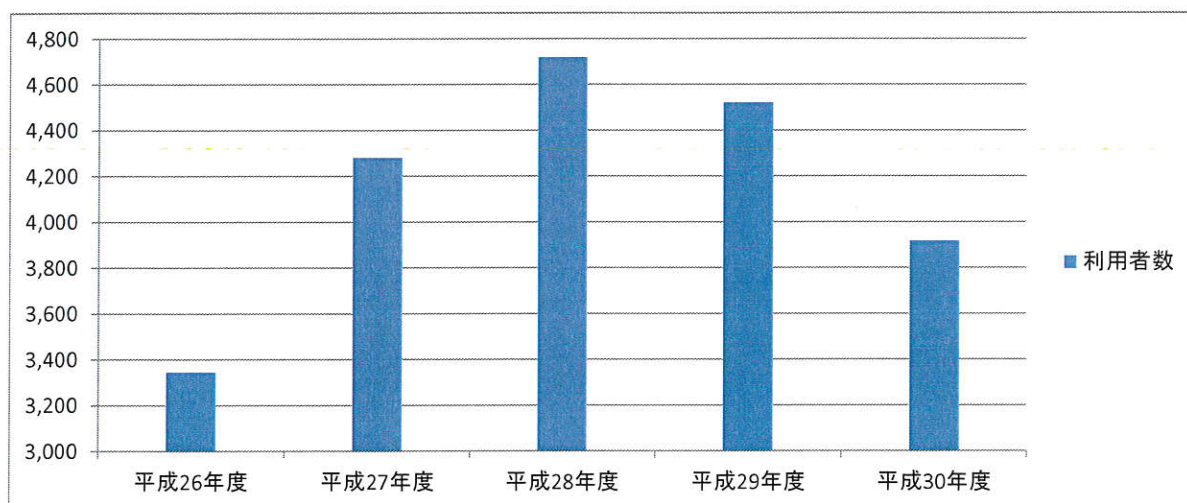
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	5,589	5,421	7,474	7,547	7,710
稼働率	60.4%	58.4%	80.6%	81.4%	83.4%



利用者数、稼働率は29年度と変わりなく推移した。30年度介護報酬改定では減額となったが、収支は横ばいにとどまった。

### d) 訪問介護

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	3,346	4,282	4,720	4,523	3,919



身体介護の利用者が重症化し、入所やショート利用となった為、利用者数は減少した。又、訪問介護員が退職したため、新規の利用者を受け入れられなかったのも一因。

## 4. 事故の傾向と事故対策

### a) 全体件数

全体件数は 336 件（状況報告書 296 件、事故報告書 40 件）と昨年より 27 件減少した。転倒等の危険性のある利用者に対し、申し送り時に「報告、連絡、相談」を職員間で取り合い連携がとれた事が改善の要因。また、「薬」に関する事故の注意喚起を複数回行い、職員が注意して与薬介助を行ったのも減少に繋がった。

### b) 転倒

転倒リスクの高い利用者を職員間で周知、常に行動を注視した為、転倒回数の多い利用者の転倒件数を減少させる事ができた。21 件減少した。

### c) 転落

前年度より増加した。ADL 低下により、ベッド・車椅子から転落するケースが多かった。対策の一つとして低床ベッドの購入が急がれる。

### d) 重症

全体件数は 11 件と前年度より 5 件減少した。重症事故が発生する度、職員を招集し原因を追究、早目に対策を立てた事が重症事故予防に繋がった。

### e) 誤嚥・異食・誤飲

件数は前年度より 1/3 に減少した。認知症の方には異食行為につながるよう周辺に極力物を置かないようした。

### f) 薬

前年度より減少。透析者に関する与薬忘れが多かったが、職員間で注意・報告し合ってミスを減らすよう努力した事が改善の要因。

※事故件数は減少したとは云え、まだまだ多い。

しかし、少しでも事故になりそうな事はヒヤリハットにあげて、30 年度のヒヤリハット件数は 3,125 件となっている。職員が真剣に事故撲滅に取り組んでいるのが伺える。今後も受診に至る打撲や骨折などの重傷事故を少しでも減らせるよう努力していきたい。

事業報告の付属明細書はありません

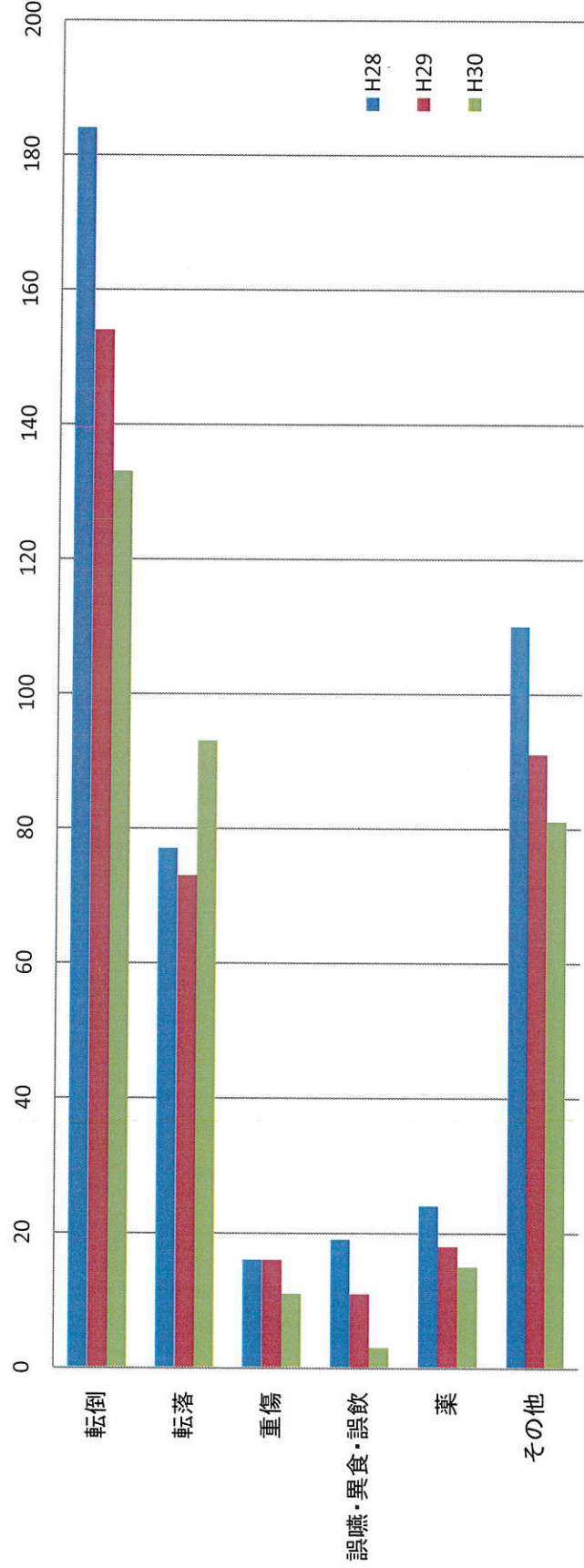


# 施設内事故状況

	全体年間推移		
	H28	H29	H30
転倒	184	154	133
転落	77	73	93
重傷	16	16	11
誤嚥・異食・誤飲	19	11	3
薬	24	18	15
その他	110	91	81
合計	430	363	336

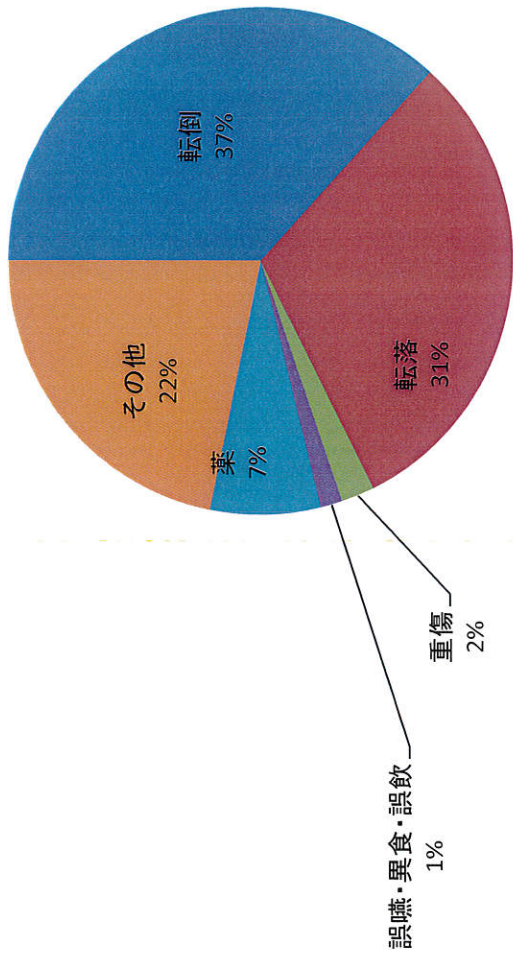
	うち平成30年度行政報告・提出事故件数		
	2階	3階	医務室
重傷	3	8	0
薬	8	4	2
その他	6	9	0
計	17	21	2
H29	20	25	3

## H28年度～H30年度 年間事故件数推移



※その他 … 内出血・剥離等の外傷、器物破損等の事故。

### H30年度 2F入所者事故区分内訳



### H30年度 3F入所者事故区分内訳

